

青木眞澄氏の発表についての

質疑応答

(質問者 1 名)

【質問】 戸田剛文 (京都大学)

・まず、丁寧に文章が書けていて読みやすく、議論が追いやすいことは評価できると思います。またテーマも興味深いものでありました。

・「生存的本能」という言葉があるが、生存に関わらない本能があるとすればどのようなものか。

・子供が熱いものに手を触れて、すぐに離すという事例について

(1) ヴィトゲンシュタインの説明がちょっとわかりにくいです。因果性の起源(p.8)と言われる時と、原初的形態(p. 11)と言われる時がありますが、起源であることと原初的形態であることは必ずしも同じではないように思います。因果性の起源であるからと言って、それ自体が因果性の形態であるとは限らないように思います。

(2) またこの事例を、ヒュームの因果性の議論に含める必要があると考える理由がもう少し欲しいです。p.9で剣を向けられる場合の事例などがありますが、もちろん剣などがどのようなものかを知っている大人がこのような状況にある時と、何も知らない子供が熱いものにうっかり当たる場合などでは、かなりレベルも違います。もちろん本能で子供の事例を説明するのはよくわかるのですが、因果性の問題の中に入れる必要があるのか(ヒュームの場合に)、もう少し説明してください。

ヒュームの専門家ではないがゆえに、ちょっと教えていただければと思います。

【回答】 青木眞澄 (京都大学)

ご質問誠にありがとうございます。

1点目の、生存に関わらない本能に関するご質問にお答えします。P.2からp.3にかけて引用しましたように、経験主義をとるヒュームですが、我々の人間本性に備わるいくつかの基本的性向は経験によらずとも確立されていることを認めています。ご質問のお答えは、このいくつかの基本的性向にあると考えます。具体的には、人間同士を惹きつけ合わせるような自然な情愛や、ある人の行為を観察したときにその人の性格から感じ取られる性格的な

徳、悪徳などは、これ以上の説明が不可能という意味で、本能的なものと考えられます。

2点目第一の、ウィトゲンシュタインの説明に関するご質問にお答えします。説明不足な部分があり、申し訳ございませんでした。確かに、ウィトゲンシュタインの意味する「子供の反射的反応」などは「原初形態」と言われる一方、私がヒュームの解釈において意味させているものは因果性の「起源」と考えるものです。ウィトゲンシュタインの「原初形態」は、個々の個体としての人間が因果性を獲得する際の過程における最初の段階を意味するものと考えられます。その一方、私が意味している「起源」では、より一般化された意味での「人間観」を問題とした際に、様々な社会的要素、あるいは経験的に獲得された要素を取り除いて考えた、いわば自然状態において、人間本性に何が備わっていると言えるかを問題とするものです。この意味において、問題とする「人間」の抽象度に差はありますが、社会的要素、経験的要素を取り除いて考える、という点で一定程度の共通点があると言えるために、例として採用しました。

2点目第二の、ヒュームの因果性の議論においてこの事例を取り入れる理由についてお答えします。こちらも説明不足な点があり申し訳ございませんでした。また、私自身の本発表の目的にも関わる重要なご指摘をありがとうございます。ヒュームは、因果推論や誇りや卑下といった情念に関する議論において、説明されているメカニズムが我々人間だけでなく、動物や子供などの、思考の働きが未熟と考えられている存在者においても共通していることを繰り返し論じています。ヒューム自身もそう述べるように、こうした議論はヒュームの自説を強化する目的において挿入されていますが、私の問題意識においては、このこと以上の意味がこれらの記述にはあると考えています。すなわち、ヒュームの因果論は我々が因果推論を行う際の精神的なプロセスを記述するものですが、ここには、我々が経験を経て最終的に「正しく」因果推論を行うに至る、という規範獲得のプロセスが含意されている、と私は考えています。この考えにおいては、こうした経験過程の最初の地点がどこにあるのか、という問題を解決することが重要となります。このような問題意識において、本発表ではウィトゲンシュタインの事例を扱いました。